

令和6年度 上町地区

みなさんこんにちは！上町地区は、「みせるぜ！上町地区の底力！～希望が繋がる、人生が輝くまち～」をテーマに発表いたします。本日は四者連携で製作したおそろいのジャンパーを着用してきました。よろしくお願いいたします。

上町地区は、国の重要文化財である大場代官屋敷と、都の無形民俗文化財である世田谷のポロ市に象徴される歴史や文化のまちとして知られています。火の元の警備と市(いち)の秩序維持を目的に行われていた「市町代官見廻り行列(いちまちだいかんみまわりぎょうれつ)」は、現在は5年ごとに実施されています。前は令和4年度に行われました。また、地区内には世田谷区役所本庁舎、区立中央図書館等があります。

次に、上町地区の概況についてご説明します。上町地区は世田谷区のほぼ中央に位置しています。世田谷の中心と言うと、皆さまは交通の便が良いとお思いになるでしょうが、管内の駅は東急世田谷線の上町駅と世田谷駅のみです。小田急線と東急田園都市線の間位置し、実はどちらにも出るのもちょっと遠い、陸の孤島！とまでは言いませんが、世田谷通りを走るバスが頼りの地区です。面積は2,564平方キロメートルで、世田谷区内の28地区と比較すると7番目の大きさです。人口は53,840人で、2番目の多さです。0歳から14歳までの年少人口は6,633人で、2番目に多く、65歳以上の高齢者人口は10,832人で、3番目に多くなっています。

続いて、上町地区のまちづくりビジョンをご紹介します。1つ目に、安全・安心、誰もがいつまでも住み続けたいまちづくりです。実践的な防災対策と防犯対策に積極的に取り組み、生涯を通して安全で安心して住み続けられるまちをめざします。2つ目に、つながり・活気、活き活きとしたまちづくりです。

「人とのふれあい・つながり・思いやり」など住民同士の交流や絆を大切にするとともに、若者の地域参加や商店街の活性化を図り、イキイキと活気のあるまちをめざします。3つ目に、『世田谷のポロ市』歴史・文化・伝統、次世代につなぐまちづくりです。国の重要文化財である大場代官屋敷と都の無形民俗文化財である世田谷のポロ市に象徴される歴史や文化のまちとして、ポロ市を継承しながら、まちの活性化と地域住民の交流の場となるまちをめざします。

さて、このビジョンを達成するにあたり、上町地区の課題を3つ紹介します。

まず1つ目に、見守り活動の推進です。高齢者の「いつまでも住み慣れた地区で日常生活を送りたい」という声に応えるため、地区全体で高齢者の見守り活動をさらに広めていく必要があります。そのために、地域活動団体同士の交流を促進し、連携を今以上に深めていくことが必要と考えております。2つ目に、地区防災力の向上です。地区における災害への対応力を高めるため、より多くの住民や団体の参加と協働による、自助、共助の取り組みを進める必要があります。3つ目に、居場所づくり、交流です。転入してきた子育て世帯や、単身高齢世帯が自宅にこもり、孤立している状況が聞こえてきます。同じような悩みを抱えた方々が交流できる場や、地域とつながりのない住民が気軽に立ち寄れる居場所づくりが必要です。上町地区では、「新たな地域の担い手の発掘」も視野に、これらの課題解決に取り組んでいます。

続いて、課題解決のための四者連携の取り組みをあんしんすこやかセンターからご紹介します。

あんしんすこやかセンターの大中です。四者連携の取り組みを紹介します。令和2年10月に施

行(しこう)された「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の理念を実現していくために策定された希望計画に掲げる「認知症観の転換」や「地域づくり」を推進するため、世田谷版の認知症サポーター養成講座である「アクション講座」が、令和3年度から区内各地で開催されています。上町地区では、地区住民、町会、民生委員・児童委員、郵便局、信用金庫、コンビニ、交通機関、介護保険サービス事業者などに対し、令和4年10月と12月に四者連携主催のアクション講座を行いました。アクション講座の出席者からアクションチームメンバーへの参加を募った結果、25名ほどのメンバーが集まりました。令和5年3月と5月に四者連携主催でアクションミーティングを開催し、3つのチームによる地域活動の立ち上げに向けて動き出しました。

こちらは第2回のアクションミーティングの様子です。こうして上町地区に「かみまちオレンジカフェチーム」「かみまち大人のあそび場チーム」「多世代交流チーム」の3つのアクションチームが誕生しました。

上町アクションチームの強みは、立ち上げの時から四者連携職員が3つのチームそれぞれの活動に関わっていることと、年間を通して活動時の四者担当制が機能していることです。続いて、アクションチームで立ち上がった地域活動の取り組みの1つ目として、認知症カフェ「かみまちオレンジカフェ」を紹介します。まずは、チームメンバー全員で数か所の会場候補を見学し、地区内の有料老人ホームのダイニングルームで開催することに決まりました。ここは5階で展望が良く、渋谷、新宿、六本木、スカイツリーも見えます。

令和5年12月に第1回を開催しました。綺麗な会場で美味しいコーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しめる場所、ホームの入居者の方も一緒に誰でも参加できるカフェとして開催しています。折り紙をしたり、参加者の方のパフォーマンスを見たりすることはありますが、特に決まったプログラムは決めていません。そこが気軽に良いところです。コーヒーはおかわりもできます。コーヒーが苦手な方には紅茶なども用意しています。参加者の中にはホームのお部屋見学を希望される方もいらっしゃいます。「眺めが良くてとても気持ちが良い場所、美味しいコーヒーを飲みながら、ゆっくりお話しができました。」との声をいただいています。運営しているチームメンバーは、ボランティアの地区住民の方、ホームのスタッフ、介護保険サービス事業者、四者連携職員です。偶数月の水曜日に開催しています。

次に、アクションチームが企画した2つ目の取り組みとして、「かみまち大人のあそび場」を紹介します。

町会長のご自宅でおこなっていた朗読と歌の会に、区民の方が得意とする早口ことばをプラスして、脳トレや、お口の体操、声を出して歌うことによる認知症予防ができる交流の場としました。令和5年8月にチームメンバーで顔合わせ会を行いました。3つのチームの中でいちばん最初にスタートした活動です。「外郎売」や「アイウエオの唄」の早口ことば、朗読を楽しむ会による朗読、キーボード伴奏と歌の解説付きの歌の会の3部構成で、毎月1回、第3水曜日に上町まちづくりセンター活動フロアで開催しています。

「早口ことばは初めての経験でした。大きな声を出す貴重な機会でした。」

「朗読がとても良かった。しみじみ、ほのぼのと聞かせていただきました。」

「歌の会では歌詞の由来なども教えてもらい、楽しく歌うことができました。」などのお声をいただいています。チームメンバーは、ボランティアの地区住民の方、町会、音楽ボランティアの方、介護

保険サービス事業者、四者連携職員です。続いて、多世代交流の取り組みを上町児童館から紹介します。

アクションチームの3つ目の取り組みの、「多世代交流」について紹介します。多世代交流チームでは、多くの世代がみんなで楽しめる活動を考えました。最初は児童館で大学生が教えてくれる大道芸をみんなで楽しむ体験イベントを企画しました。大学生が小学生に教えながら、高齢者も小学生と一緒に楽しむものです。皿回しやお手玉のようなものなど、いろいろありますが、それぞれが挑戦して楽しみました。大学生のショータイムもあり、盛り上がって良かったのですが、大学生の定期的な参加が難しく、継続的な活動とはなりませんでした。

そこで、今度はみんなが知っているラジオ体操を屋外で行うことにしました。ラジオ体操は健康にも良く、手ぶらで参加できるので、分かりやすいと考えました。散歩に来た近所の保育園児たちも含めて一緒にラジオ体操ができるといいなと思いました。毎週1回、水曜日、午前10時から、会場は上町まちづくりセンターの隣にある天祖神社の境内です。メンバーはお揃いのジャンパーを着て活動をアピールし、楽しい雰囲気作りに努めています。ラジオ体操の歌で、みんなが誘われ通行人にも宣伝できます。ラジオ体操のあとには特別な活動はありません。それがよいのです。無理なことはしません。また来週お会いできることを楽しみに解散です。

次に都営桜一丁目アパートでの取り組みを社協から報告します。

都営桜一丁目アパートを中心とした買い物弱者支援および居場所づくりに関する取り組みについて紹介します。上町地区の北西部に位置する桜1丁目は、急な坂が多く、公共交通機関へのアクセスがしにくい場所に位置しています。大型スーパーは駅前や大通りに面した場所にしか無く、また近年では、小売店の閉店などの影響も重なり、高齢者を中心にいわゆる「買い物困難地域」としての課題を抱えていました。

そこで都営団地の自治会や民生委員・児童委員など、地域の皆さんにヒアリングを実施し、具体的なニーズの把握や周辺の情報収集に努めました。そんな中、地区内にあるセブンイレブンから地域密着型の移動販売に関する相談が入ったことをきっかけに、セブンイレブンのオーナー様との打ち合わせ、都営桜一丁目アパートの自治会を交えた話し合いを経て、アパートの敷地内に移動販売車を誘致することとなりました。

令和5年4月より開始したセブンイレブンによる移動販売車は、毎週月曜日午後1時に到着し、都営団地の皆さんや周辺に住む方々に利用されています。利用者のニーズに合わせて毎回商品を調達しているため利用者の満足度も高くなっています。エレベーターのない3階建ての都営桜一丁目アパートでは、希望の世帯には移動販売のスタッフが重い商品を自宅まで届けております。また、移動販売の日を持ち合わせていなかった商品の希望も承っており、次回にお持ちするようにしています。さらには移動販売車で公共料金の支払いも対応するなど、単なる買い物支援だけでなく、利用者の生活ニーズに寄り添う支援を行っております。利用者からも、「自分で商品を選んで購入できるのがいい」「買い物に来ると近所の方に会えるので毎回顔を出している」などと前向きな声が寄せられています。買い物不便という課題が徐々に解消されてきた中、その他の生活課題把握のため、住民と関係機関の話し合いの場として通称お気楽さくら茶話会を設けました。

お気楽さくら茶話会では自治会や地域福祉推進員、民生委員・児童委員など地域住民と四者連携職員が集い、地域の気になることや困りごとなどを共有しました。話し合いの中では、「一人で

自宅で生活する時間が増えたが、人と話をする機会が減り、とっさに言葉が出てこなくなるときがある。」「団地の高齢化やコロナ禍もあり住民の外出機会が減少している。」「身近に体操できる場があったらいいな」など「孤立」「交流」「ふれあい」をキーワードとした人と人とのつながりの減少が課題として挙がってきました。そこで「心と体の健康」をテーマに、周辺住民の皆さんが気楽に集える場として、「お気楽さくら広場」を立ち上げました。

お気楽さくら広場は令和6年6月から開始し、毎月第2木曜日の午前10時から1時間、会場はアパートの敷地内の集会室を利用し、健康体操やおしゃべりなど住民の方々が気楽に参加できるプログラムを実施しています。周知については、スタッフを担ってくださる住民の方々がアパート各戸へのチラシをポスティング、敷地内の掲示板への掲示などをおこなっています。回を重ねていく中で参加者からも、「次は介護保険について学びたい」「どうしたらより多くの方が参加してくれるだろうか」など運営に関して積極的な意見が挙がってきており、住民主体の活動になりつつあります。

こちらは、都営桜一丁目アパートに係る取り組みについてまとめた図です。

住民の方々から出た買い物不便、孤立や交流機会の不足という課題に対し、住民と関係機関との協議、連携を図りながら、移動販売による買い物支援や誰もが気楽に参加できる居場所づくりを進めてきました。今後も地域の方々が主体となりながら、関係者間での協議を重ね、ネットワークを形成しながら課題を解決できるよう、ともに取り組んでいきたいと思ひます。

最後に今後の展望についてお話しします。上町では、歴史のあるボロ市や、ホテル祭りとサギ草市などの地域イベントが開催されています。これらのイベントと四者がコラボして、地域の魅力をさらに引き出し、訪れた方々に忘れられない体験を提供していけたらと思ひます。また、今年度初めて、福祉サービス事業者、住民、地域団体との関係強化を目的とした2つの「学び交流会」を開催しました。

チラシづくりを通じて情報発信のヒントを学び、グループディスカッションで参加者同士の交流を行った「広報学び交流会」と、防災に関する知識や準備の大切さを共に学び、理解を深めることで、地区の防災力と結束力を高めた「防災学び交流会」です。四者連携主催の「学び交流会」は、来年度以降も定期開催を目指します。関係機関とは「顔の見える関係」を発展させるため、定期的な交流の場を設けると共に、日常的に相談や意見交換ができる関係を築きます。情報共有や協力体制を強化し、強固な連携を実現していきます。上町地区はこれからも四者の力を結集し、連携をさらに推進して、地域のさまざまなイベントと関わりながら、伝統、文化をつなぎ、安全安心でいきいきとしたまちづくりを進めていきます。

上町地区の報告は以上です。ご清聴ありがとうございました。